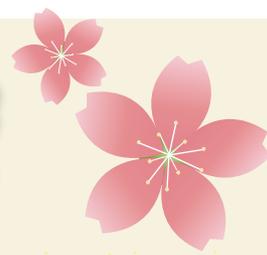


鹿児島流

熱いハートの医師 育てます



平川動物公園（鹿児島市） 写真協力：観光かごしま大キャンペーン推進協議会

私の臨床研修医時代

霧島市立医師会医療センター かわの よしふみ
院長 河野 嘉文

出身校 鹿児島大学

1981年3月に鹿児島大学医学部を卒業し、東京都中央区にある聖路加国際病院で初期研修をしました。卒業生の90%以上が大学に入局する時代でしたので、初期研修病院を標榜している病院は多くありませんでした。研修病院のレベルは剖検率で示され、聖路加病院では90%以上の剖検率を誇っていました。夜に亡くなり、朝まで剖検に立ち会い、継続して日常勤務し、2週間～1か月後に開催されるCPCの準備は大変でした。私が担当した小児例のみで年間12例のCPCを経験させてもらいました。診断技術が進歩した現在では考えられません。シミュレータはない時代で、先輩が1回手本を見せてくれたら、次回からは自分で担当するという研修で、髄液採取も、骨髄穿刺も、分娩介助まで…。荒っぽい方法ですが、社会が許容してくれたから可能だったもので、現在とは比較できません。その頃に獲得したものを基盤に、その後の経験によって修正し、40年後の今も患者さんに接しています。研修医時代はそれほどかけがえのない時間だと思います。



出身地 徳島県

指導医の思い出



出身地 指宿市

やまもと きよあき
山元 聖明

出身校 鶴丸高校▶鹿児島大学

勤務先▶いまきいれ総合病院

平成16年に鹿児島大学を卒業し、同年より鹿児島大学のプログラムにて研修を行いました。ちょうど私の年からスーパーローテーションが必須となり、選択したプログラムは2年間で7カ所の病院を回るというプログラムでした。1か月で病院を移ることもあり、また病院も鹿児島市内だけではなく伊集院、鹿屋、甑島と県内各地であったため、引っ越しに次ぐ引っ越しでヤドカリのような生活でした。なぜこのプログラムを選んでしまったか当時は自分を恨みましたが、今思えばその分いろいろな指導医、スタッフに指導いただく機会がありました。また地域医療で研修した甑島の診療所では近所の方も歓迎会に加わり、研修終了時にはフェリー乗り場まで見送りに来てくださり感激したのを覚えています。スーパーローテーションは大変な面も多いですが、研修医の先生方にはいろんな方との出会いを大切にさせていただきたいと思います。



出身地 鹿児島市

にしもと けんご
西元 謙吾

出身校 鶴丸高等学校▶鹿児島大学

勤務先▶鹿児島医療センター

私が大学を卒業した頃はまだ研修制度がなく、鹿児島大学耳鼻咽喉科の前々教授である大山先生に薫陶を受け、卒業と同時に鹿児島大学耳鼻咽喉科の大学院に入りました。大学院に入っても臨床をしないわけではなく、外来・病棟の患者を担当しながら研究生生活を送っていました。今となってはかなりブラックな環境だと思いますが、夜から実験を始め、寝袋を持ち込んで実験室で寝ていたことも多々ありました。若いころで体力があったからできたことだと思いますが、今思えばあの経験が何事にも対処できる自信の素地となっています。

現在の研修医制度とは違い、臨床については手術も含めて「見て覚えろ」という時代で、分からないことは自分で論文などを調べて勉強をした記憶があります。今は情報の検索が便利になっていますので積極的に論文や教科書などで知識を蓄えておくことが将来につながるのではないのでしょうか。



出身地 鹿児島市

とみむら なつこ
富村 奈津子

出身校 鶴丸高校▶島根医科大学

勤務先▶南風病院

運動器疾患の治療に興味があり、1995年鹿児島大学整形外科に入局しました。当時医局に女性の先輩はおらず、産休や育休制度もない時代でしたが、そんなことを考える暇もなく忙しい毎日でした。指導医と1学年先輩と私の3人で患者さんの治療をするのですが、早朝から夜遅くまで金魚のフンのように先輩にくっついて一緒に仕事をするうちに、仕事の面白さや厳しさを学びました。先輩達は可愛がって下さいましたが、勉強不足や要領が悪くてよく怒られました。しかし大人になってから注意して下さる先輩はありがたい存在で、今日怒られたことは明日注意されないぞ、という気持ちで今日までやってきた気がします。若い先生方は色んな先輩達とたくさん話をして、先輩の失敗談や苦労話から医師人生のヒントを得てください。医師の仕事は厳しいものですが指導医の教えがいつまでも心の支えになると思います。



出身地 福井県

やまざき だいすけ
山崎 大輔

出身校 敦賀高等学校▶関西医科大学

勤務先▶米盛病院

私は沖縄県立南部医療センター・こども医療センターで初期研修を行いました。研修を進めていく中で救急医の仕事に憧れを抱きその道を目指すことになりました。今思えば上級医の手の上で転がっていただけの日々でしたが、初期研修2年目には自分が救急外来を回していると思わせてくれるような充実した初期研修を送らせて頂きました。救急科の指導医の先生方は我々初期研修医に裁量を与え、自尊心を大切にしてくれ、意見を尊重し、労をねぎらい、時には怒り、情熱をもって指導頂きました。今でもその優しさ、振る舞い、救急医としての格好良さは忘れません。いつかは沖縄南部医療センター・こども医療センターに恩返しがしたいと思っています。自分が受けた温かい指導を後輩の先生方に行うことも指導医の先生方への恩返しとも考えており、その気持ちを忘れず初期研修医の先生方と学んでいきたいと思っています。

研修医の声



出身地 鹿児島市

おおさこ しょうせい
大迫 将精

出身校 ラ・サール高校▶鹿児島大学

研修先▶鹿児島市立病院

研修医生活が始まり、早くも一年が経とうとしています。頼れる指導医の先生方、そして切磋琢磨できる同期たちに囲まれて、忙しいながらも充実した研修医生活を送っています。内科、外科、救急科、麻酔科とローテートしてきた診療科も多くなってきました。それぞれの診療科で基本的な知識や手技から専門的な考え方で、多くの指導医の先生方から丁寧に指導していただいています。救急当直では、急患の初期対応を通して問診や診察の仕方、様々な疾患の症状や治療を学ぶ事ができています。わからないことやできないことはじっくりと指導していただける環境の下、少しずつ医師として前進できていると感じています。残り一年ほどとなった研修医生活の中で、今まで以上に積極的に学び、より多くのことを経験し、良い医師になれるように、日々研鑽していきたいと思っています。



出身地 志布志市

ささき かな
佐々木 香奈

出身校 志學館高校▶鹿児島大学

研修先▶鹿児島県立病院群（県立大島病院）

昨年4月、社会人としてのルールやマナーもわからないまま研修医として働き始め、一日中緊張し通して生きていくだけで精一杯な日々でした。自分の無力感に苛まれて辛い気持ちになることもありましたが、そんな中、話を聞いて支えてくれた同期と2年目の先輩方にはとても感謝しています。さらに指導医の先生方も丁寧にわかりやすく仕事を教えてくださり、周りの支えのおかげでなんとか研修1年目が無事に終わろうとしています。私もあと数ヶ月で先輩になります。まだまだ医学的知識にも乏しく、日々鍛錬が必要な身ですが、少しでも後輩たちの見本になれるように日々精進していきたいです。また、自分の進路についても考えながら初期研修の残り1年を悔いの残らないように1日1日を大切に過ごしていきたいです。



出身地 西之表市

えのもと りゅうせい
榎本 龍生

出身校 青雲学園（長崎県）▶鹿児島大学

研修先▶鹿児島生協病院

鹿児島生協病院で初期研修が始まり、早くも1年が経とうとしています。病棟、夜間救急外来、手術室など、様々な場面で患者さんと関わり、日々学ばせていただいています。始めは分からないことだらけで不安しかありませんでしたが、同期と切磋琢磨し、指導医をはじめ多くのスタッフの方々の丁寧な指導を受け、少しずつできることが増えてきました。研修を通して、医学的知識はもちろんですが、患者さんやそのご家族、また一緒に仕事をするスタッフなど、人との関わり方が、自分が想像していたよりずっと大切であることを学びました。医師人生のスタートを切ったばかりで、学ぶことが山ほどあります。患者の思いに寄り添う診療ができる医師を目指して、ひとつひとつの症例を大切に、これからも楽しく研修をしていきたいと思っています。



出身地 鹿児島市

にし ほうせい
西 萌生

出身校 鶴丸高校▶鹿児島大学

研修先▶鹿児島大学病院

患者さんのこれからの人生にかかわる医師として働き始めるにあたり、不安と期待が入り混じるような気持ちでしたが、2年間の研修を無事に終わられることにほっとすると同時に、4月からより大きな責任のある立場になることを考えると身が引き締まる思いです。

私は研修の中で、大学病院以外に4つの病院で研修を行い、病院や地域によって医師、病棟の果たす役割の違いというのを強く感じました。また、地域の病院では他科の先生方やコメディカルスタッフとの距離感がより近く、チーム医療という言葉をより強く実感して大学病院に戻ってこれたと思います。

4月から研修医という立場ではなくなりますが、初心を忘れることなく努力していくとともに、それぞれの科で学んだ知識を自分やチームの患者さんに対して活かしていくことができるようにより学びを深めながら働いていこうと思っています。

ト

TOPICS

ピ ッ ク ス



○指導医養成講習会を開催しました!!

令和3年11月20日(土)、21日(日)に、「第12回鹿児島県初期臨床研修指導医養成講習会」を開催しました。

受講者は、臨床研修制度や鹿児島県の地域医療の現状について、また、指導するにあたって必要な研修目標の立て方や評価の仕方など、16時間以上にわたって講習を受けました。

また、この講習会は厚生労働省の開催指針に則って実施しており、修了者には厚生労働省医政局長名の修了証が授与されました。

当協議会では、研修医の方々により良い環境で研修を受けられるよう、さまざまな取り組みを行っていますので、ぜひ安心して鹿児島で研修を行ってください!!



○協議会主催の令和3年度第3回オンライン合同説明会を開催しました!!

令和4年2月に、県内のすべての基幹型臨床研修病院が参加し、オンライン合同説明会(Zoom)を開催しました。

県内外から数多くの医学生の方に参加していただき、コンシェルジュによる個別相談と指導医・研修医・病院関係者から病院・研修プログラム内容の説明や研修医生活について説明してもらいました。

また、参加した医学生からは、研修病院の選び方から採用基準、給与のことまで、さまざまな質問があり、病院側も丁寧に対応しました。

令和4年度も、当協議会主催でオンライン合同説明会を実施する予定ですので、ぜひ御参加ください!!

詳細は決定次第、協議会公式Webサイト等にてご案内します。
公式WebサイトURL ⇒ <https://kagorinsho.jp/>



○県外医学生等出前セミナーについて

当協議会では、県内の研修医や指導医が、県外医学生の住むまちに伺い、県内の最新の研修プログラムについて説明したり、病院見学や、臨床研修のこと、鹿児島での生活についてなど、医学生からの質問についてお答えしたりする「県外医学生等出前セミナー」を開催しています。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域によっては訪問することが難しくなっています。そこで、オンラインシステム「Zoom」を使い、オンラインでの面談も実施しています。

県外にいながら、研修医や指導医の生の声を直接聞くことができる機会として、お一人でも、ご友人と一緒にでも大歓迎ですので、興味のある方はぜひ当協議会事務局までご連絡ください。

e-mail: iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp
TEL: 099-286-2581



鹿児島県初期臨床研修連絡協議会 (事務局: 鹿児島県 暮らし保健福祉部 医師・看護人材課)

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1

e-mail iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp

TEL **099-286-2581** FAX **099-286-5928**